～INTERVIEW～

木村教育長へ、計画にかける思いを伺いました

木村 義二（きむら よしじ） 教育長

計画の策定に対する思い

第1次南丹市教育振興基本計画では、学校での「学校教育」と学校以外の社会での「社会教育」が分かれていましたが、本計画はその枠組みを取り払い、目指す市民像の実現に向けて、教育委員会ができること、進めていきたいことをまとめています。

「人生100年時代」や「生涯学習時代」を迎える中、大人も子どもも生き抜く力、社会の変化を乗り越える力を身に付けていただき、より良い南丹市をつくっていきたい、といった思いを込めています。

生涯にわたって学び続ける力の育成と環境の構築

子どもも大人も、生きていく上での目標として、**夢や希望**は非常に大事だと考えています。また同時に、**学力**も必要です。子どもたちは学力が付けば付くほど、進路選択の幅が広がっていきます。

また、「人生100年時代」を迎えるにあたり、礼儀などを学び人間を豊かにさせるスポーツや文化活動などの**生涯学習**の充実、乳幼児期からの**読書教育**などに取り組んでいきます。

人権尊重の意識は、子どもの時に身に付けると大人になっても変わりません。また、地域の方との交流などにより人との温かみを感じ、そのことがいじめの減少にもつながると考えています。

ふるさと南丹市を愛する心の醸成

子どもたちは地域の方と交流し、まちの良さを教えてもらうことによって、「こんなところがあったんだ」と知るわけです。核家族化が進む昨今では、家庭だけでは地域の魅力を伝えきれない部分もあります。

また、**文化財の魅力創出**や**自然体験活動**などを行う中で、**ふるさとを愛する心**が生まれると考えています。

これからの社会を生き抜く力の育成とつながりの構築

多様な人がいることを理解し、互いに尊重し合うことが国際社会で求められています。そのためには、**外国語教育**や**バリアフリー意識の啓発、浸透**を深めていきたいと考えています。現在の大人が学んできた時代よりも、今の子どもの時代の方が広く深いものがあります。

また、「褒めて伸ばす」教育が大事ですが、日本は諸外国に比べて自信のない子、**自己肯定感**が低い子が多いです。**異年齢での交流**や**学校・地域社会で活躍できる場**をつくり、さまざまな方とふれあい、お互いの多様性を認め合うことで**自己有用感**も養われると考えています。

▲地域との連携、協働によるホームステイ体験の様子（美山小）

市民の皆さまへ

私は、教育は「人間の生き方の種まきなり」だと考えています。学習の種、スポーツの種、心の種…。「教育は学校に任せたら良い」と思われる方もありますが、今の時代、それでは十分とは言えなくなっています。教職員はもとより、さまざまな種を親や地域の方、いろんな方からまいてほしいと願っています。

また、家庭教育は教育の第一歩です。勉強だけでなく子どもの将来展望を見据え、さまざまな困難を乗り越える力を付けさせ、じっくり指導してあげてください。地域の方にも子どもに関心を持っていただき、地域全体で「こんな子を育てていこう」という目指す子ども像を共有していただけたらと思っています。

そして、子どもの「生きる力」の育成や教職員の「教師力」の向上に教育長として力を入れていきたいと思っています。良い学習環境、指導者のもとには良い子どもたちが育ちます。そのためには保護者をはじめ、地域の皆さま全体のご協力が必要と考えています。今後とも、教育に対するご理解・ご協力をよろしくお願いします。